

<1>2024年(令和6年)4月1日 月曜日

Biz Life Style



Ginza

働く男のライフスタイル情報紙

# Biz Life Style

[ ビズスタ ]

2024 04

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、関西、  
仙台、福岡、広島にて49万部発行  
下記URLまでアクセスを。

[www.biz-s.jp](http://www.biz-s.jp)

本紙はスポンサー様の協賛により制作しております。

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは

TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作/株式会社デイリースポーツ案内広告社

〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F

©2024 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



2024年4月5日、ザ・ペニンシュラ東京に  
Aston Martin Ginza グランドオープン。

My Favorite Life Style



車種名通りのハイパワーを誇るラグジュアリーSUV

DBX707

スポーツ的な走りのダイナミズムと、ラグジュアリーなクラフトマンシップ。SUVの新たな基準を打ち立てたという評価を欲しいままにする「DBX707」は、そのモデル名自体が新時代の幕開けを告げている。

設定が見直されたハイブリッド最新技術のカーボンファイバー製フロアパンヤット、先端エレクトロニクス製のローチコントロールなどを贅沢に装備。加えて、満を持しての採用となったカーボンセラミックブレーキは、これまでも最強の制動力を誇る。だが、それは強烈な走りの裏返しでもあるのだ。

もうひとつの注目点は、SUV特有の腰高感をよりスマートに克服したデザインだ。前車のドライバーがバックミラーを二度見しそうなスポーツキャラクターは、モータースポーツの頂点に再び戦いに臨む近年の同社の活力を映すようにも見える。



英国の価値観の極み、アストンマーティンの111年。

独自のクラフトマンシップと先進のメカニズムそして一度味わったら忘れられないほど強烈なドライビングエクスペリエンスで、揺るぎない地位を固めるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランド「アストンマーティン」。前身企業の設立は1913年にまで遡るアストンマーティン・コングラダ社は今年で111年目を迎えた。

1年からは何と61年ぶりにモータースポーツの最高峰F1に帰還。ちなみに、今年の日本グランプリは今週末の4月5日〜7日に開催されるが、コンストラクターとして参戦中のアストンマーティン・チームはアストンマーティン・コングラダの大株主ロレンス・ストロール氏の息子、ランス・ストロール選手が出走する。F1参戦6年目のカナダ人ドライバーで、アストンマーティンの復帰とともに移籍して今年で4シーズン目。昨季はF1でのキャリアハイに迫るポイントを叩き出している。ぜひ注目。

「数々のアワードに輝く「DB12」の躍進ぶりなどを見るにつけ、今後の期待が大きく膨らむ。最近では、街角でもその個性的なフォルムを見かけるようになったアストンマーティン。こうした好調を象徴する施設が、日本グランプリ開幕当日の4月5日にグランプリオーブンを果たす。皇居外苑と日比谷公園に面したロケーションに建ち、国際的に高い評価を受けるラグジュアリーホテル「ザ・ペンタゴン」東京内で開業予定の「Aston Martin Ginza」は、東京における新たなシヨールムとなる。



国際都市TOKYOを代表する街である銀座に隣接する形で贅を尽すザ・ペンタゴン東京は、フオーストラベルガイド」のホテル部門では9年連続で最高評価の5つ星を獲得した日本を代表するホテルのひとつ。そんな世界最先端の洗練が息づく舞台を選んだことが、日本市場で継続的な事業の拡大を誓うアストンマーティンの決意が伝わってくるかのようだ。

「スーパーツアラー」を宣言した次世代スポーツカー

DB12

アストンマーティンのチーフテクニカルオフィサーは、それをブランドそのものの姿を体現する車種」と表現する。パフォーマンスからダイナミクス、エンジンリンク、テクノロジーまですべての面において、同社がリーダーのポジションにあることを強く主張する1台、それが「DB12」なのだ。

単なるGTではなく、世界初のスーパーツアラー。昨年5月のワールドプレミアで世界中の自動車ファンに向けて発表されたDB12は、同社でも最も豊かな歴史を誇る存在として名高い高級グラนด์ツアリングカードBシリーズの最新モデルだ。



歴代最速、アイコン的な血統の最新モデル

新型 Vantage

その名を聞くと、かつて世界で最も有名な英国人スパイが銀幕の中で颯爽と乗りこなした「あの車」を思い出すかもしれない。「Vantage」もまた、現在に至るアストンマーティンの歴史的なエピソードをたどりつと、湿る主眼だ。この2月にお披露目された新型Vantageは、「ENGINEERED FOR REAL DRIVERS」というスローガンを掲げる。見ているだけで、この車に気がつく、これは単なるデザイン上の戯れではない。グリルの開口部を38%も拡大したのは、前型に比べて155馬力ものパワーアップを実現することを受けて、熱負荷をより効率的

に放出する必要があったからだ。ボディも30mm拡幅されてワイドスタンス化されたが、さらに「リアな走りへの欲求は随所に確認できる。それを洗練のフォルムにまとめた新型Vantageは、その名を冠して74年目のスポーツカーが達したひとつの完成形と言える。一方イタリアは、息を呑むほどラグジュアリーで紳士的だ。思わず見惚れるアーキテクチャラーインに最先端のコネクテッドテクノロジー、しなやかで香りの良い上質なレザーには手縫いのステッチ。シートに身を埋め、ステアリングを握るたびに湧き上がる「所有する喜び」、これもアストンマーティンオーナーの特権なのだ。



## 2024年4月5日、Aston Martin Ginza グランドオープン。

5つ星ホテル『ザ・ペニンシュラ東京』の1～2階、最新のビジュアルイメージを組み込んだグローバルCIを展開するラグジュアリーなショールーム。



過去9年にわたり毎年5つ星を獲得し続ける、ラグジュアリーホテルの最高峰。銀座に隣接する丸の内ランドマーク『ザ・ペニンシュラ東京』の建物の1～2階、実に324㎡の広さを誇る空間が『Aston Martin Ginza』の舞台だ。

手がけるのはグラーツ・オートモビル株式会社で、同社にとって2拠点目のディーラー・ショールームになる。最新のグローバルCIを展開する店内には、大型デジタルメディアウォールやビクターラウンジなどが優雅に広がる。そしてもちろん、アストンマーティンの最新モデル3台の実車展示も。前ページで紹介した英国が誇るハイクラスカーの洗練を極めた魅力の實際を、目の前の実物で堪能できる。

また、同店では、アストンマーティンのクラフツマンシップと最先端技術を学ぶことができる。プライベートスベックルームとカスタマーラウンジでは、Q by Aston Martinによるビスポークサービスを提供。シートのレザー



や色などのオプションが選べるだけでなく、可能な限りの要望をヒアリングしてくれるので、夢をお持ちの方は語ってみるのもよいだろう。

グラーツ・オートモビル社では、今後もさまざまな計画を構想中とのこと。その幕開けとなる『Aston Martin Ginza』のグランドオープンは4月5日。その日、あるいは週末に銀座方面にお出かけなら、ぜひ立ち寄りてみよう。

### グランドオープンフェア記念

4月5日(金)～4月14日(日)の期間内でご成約のお客様に、  
『ザ・ペニンシュラ東京のディナー付きペア宿泊』をプレゼント  
※宿泊有効期限 2025年3月31日まで ※宿泊除外日がございます。



Ginza

Aston Martin Ginza

東京都千代田区有楽町1-8-1  
ザ・ペニンシュラ東京  
TEL.03-5220-7007  
営業時間: 11:00～19:00 水曜定休  
<https://www.graz-ginza.jp/>

